

令和3年度 木材利用優良施設コンクール 受賞施設の概要

木材利用推進中央協議会

内閣総理大臣賞 あわくら会館（岡山県）

農林水産大臣賞 高惣（たかそう）木工ビル（宮城県）

国土交通大臣賞 タクマビル新館（研修センター）（兵庫県）

環境大臣賞 流山市立おおぐろの森小学校（千葉県）

- 林野庁長官賞**
- 木曾町役場本庁舎（長野県）
 - 桐朋学園宗次（むねつぐ）ホール（東京都）
 - 南会津地方広域市町村圏組合・新消防庁舎（福島県）

木材利用推進中央協議会会長賞

- 滋賀県林業会館（滋賀県）
- 道の駅したら・設楽町奥三河郷土館（愛知県）
- アネシス茶屋ヶ坂（愛知県）
- 高輪ゲートウェイ駅（東京都）

審査委員会特別賞

- 南予森林組合新事務所（愛媛県）
- KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（岐阜県）

内閣総理大臣賞

あわくら会館（岡山県英田郡西粟倉村）



<施設概要>

森林経営、素材生産、木材流通や木製品・木製家具デザイン等事業者など、地域の川上から川下までの事業者が協働することにより建てられた木造庁舎及び多目的交流施設。

工期の分割や木材供給スケジュールに合わせた工程の設定等の工夫により、建物に使用する木材の村産材率97%を実現。健全な森林経営の推進を目指す「百年の森林構想」に基づく計画的な設計プロセスと美しいデザインを実現している。

施主	西粟倉村
設計者	株式会社アルセッド建築研究所
施工者	梶岡建設株式会社
主要構造	木造（軸組工法）、鉄筋コンクリート造
階数	地上2階
延べ面積	3,461.31 m ²
主な使用樹種	スギ、ヒノキ、クリ、カシ

農林水産大臣賞

高惣（たかそう）木ビル（宮城県仙台市）



<施設概要>

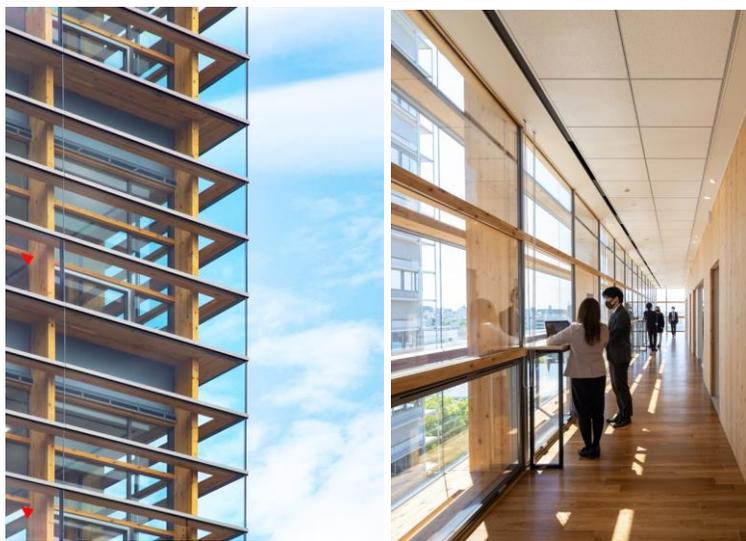
東日本大震災から10年という節目の年に被災県からの調達を掲げ、全国どこでも製造できる小断面の一般的な製材品を活用した「束ね柱」や「合掌型合わせ梁」などを用いた耐火部材を開発・使用して、我が国で初めての7階建て木造ビルを実現。普及性があり都市の木造化のモデルとなる施設となっている。また、SGEC認証材を使用し、東北初のSGEC/PEFC-CoCプロジェクト認証を取得している。



施主	高惣合同会社
設計者	株式会社シェルター
施工者	株式会社シェルター
主要構造	木造（軸組工法）
階数	地上7階
延べ面積	1,131.25 m ²
主な使用樹種	スギ、ヒノキ

国土交通大臣賞

タクマビル新館（研修センター）（兵庫県尼崎市）



<施設概要>

断熱性を確保しつつ、木架構を見せるため、従来、鋼材やアルミ材でしか実現できなかったダブルスキン（内外2枚のガラス外壁）について、支持部材を集成材で構成し、内外に木を表出するデザインとしている。木部に金物を埋め込んだ接合方法を独自に考案し採用するとともに、耐震用CLTパネルを壁に現しで使うなど、温かみのある空間を創出しており、都市環境にマッチした木のぬくもりを届けるビルとなっている。

施主	株式会社タクマ
設計者	株式会社竹中工務店 大阪一級建築士事務所
施工者	株式会社竹中工務店大阪本店
主要構造	木造、鉄骨造
階数	地上6階
延べ面積	3,334.35 m ²
主な使用樹種	スギ、カラマツ、オウシュウアカマツ、ヒノキ

環境大臣賞

流山市立おおぐろの森小学校（千葉県流山市）



<施設概要>

校舎の構成を4棟に分割しそれぞれを3,000㎡以下に区画し、避難時倒壊防止建築物（1時間）とすることで、木造3階建ての校舎を実現。

地域材の調達が比較的難しい千葉県において、県産材のほか姉妹都市である長野県信濃町産材も調達して、千葉県内で製造されたLVLを主要構造材に活用している。内装には地元の広葉樹も利用しており、構造材、内装材合わせて2,200㎡の木材を使用している。

施主	流山市
設計者	株式会社日本設計
施工者	松井建設株式会社
主要構造	木造（軸組工法）、鉄骨造、鉄筋コンクリート造
階数	地上3階・地下1階
延べ面積	12,423.75㎡
主な使用樹種	スギ、カラマツ、クリ、サクラ、マテバシイ等

林野庁長官賞

木曾町役場本庁舎（長野県木曾郡木曾町）



<施設概要>

「木曾産材を使う」、「木曾で製材する」、「木曾の職人が建てる」を基本に、カラマツを無垢材のまま構造材として、またケヤキ・クリ・カツラの風倒木をカウンターやベンチ、椅子等に、クリ材を「中山道こみち」などのフローリングとして有効活用するなど、針葉樹や広葉樹の特性を活かした使い方をしている。新庁舎建設の木材使用量のうち、構造材334m³、4,610本の調達に支障をきたさないよう、構造材の購入費用を本体工事に含めず、分離方式により町が木材を購入して材料支給により施工したモデル的な事例。



施主	木曾町
設計者	(株) 千田建築設計
施工者	岡谷・松本土建・正澤・開田特定建設 工事共同企業体
主要構造	木造（軸組工法）
階数	地上1階
延べ面積	2,876.16 m ²
主な使用樹種	ヒノキ、カラマツ、サワラ、クリ

林野庁長官賞

桐朋学園宗次（むねつぐ）ホール（東京都調布市）



<施設概要>

CLTを意匠・構造・音響面から採用した世界初の音楽ホールであり、CLTを構造材だけでなく壁の意匠材や音響反射・拡散部材としても活用している。音楽ホールはCLTを集成材や構造用合板と組み合わせた折板屋根構造により構成し大空間を実現。ホール全体が木の楽器のようになっており最高の音環境を実現。また、教室棟の梁材には強度の高いカラマツ材を関東甲信越地域から調達し使用している。

施主	学校法人桐朋学園
設計者	隈研吾建築都市設計事務所、 唐澤誠建築音響設計事務所、 ホルツストラ、 前田建設・住友林業共同企業体
施工者	前田建設・住友林業共同企業体
主要構造	木造（軸組工法）、CLT折板構造
階数	地上3階、地下1階
延べ面積	2,392.59 m ²
主な使用樹種	スギ、ヒノキ、カラマツ、オウシュウアカマツ

林野庁長官賞

南会津地方広域市町村圏組合 新消防庁舎

(福島県南会津町)

<施設概要>

川上と川下が協定を結び地域材を最大限利用する供給体制が構築されており、使用木材はすべて地域材。CLT、WOODALC120、縦ログなど多様な木質部材を現しで使用することで木質感を創出。消防庁舎という特殊用途での木質空間は安らぎと柔らかな質感を与え、職員の心身面への効果も期待される地域のシンボリックな施設となっている。鉄骨造の床構造をデッキコンクリート床からCLT床に置き換えることにより固定荷重の軽減が図られ、鉄骨総重量の縮減と基礎設計用軸力の軽減によるコストダウンを可能としている。

施主	南会津地方広域市町村圏組合
設計者	福島県建築設計協同組合
施工者	大桃・金子・東邦特定工事共同企業体
主要構造	鉄骨造
階数	地上3階
延べ面積	2,985.38 m ²
主な使用樹種	スギ



木材利用推進中央協議会会長賞

滋賀県林業会館（滋賀県大津市）



<施設概要>

大径材を活用した屋根構造や、一般流通材を利用した木造架構により、ローコストを実現。横架材は滋賀県北部の強度に優れたスギ材、柱材は県南部の美しいヒノキ材、玄関ホールの壁面には県中部の広葉樹を用いて、「滋賀の木の展示空間」を創出。スパンが7.28mのピロティの屋根架構はスギの大径木から製材した部材をつなぎ合わせた格子梁とし、簡易な架構や施工方法となっており、今後見込まれる大径材の利用も踏まえたものとなっている。



施主	滋賀県森林組合連合会
設計者	宮村太設計工房
施工者	株式会社坂田工務店
主要構造	木造（軸組工法）
階数	地上2階
延べ面積	541.36 m ²
主な使用樹種	ヒノキ、スギ（構造材はすべて県内産）

道の駅したら・設楽町奥三河郷土館

(愛知県北設楽郡設楽町)

〈施設概要〉

構造材は全てヒノキ材の現わしとし、大断面の梁材製作のため比較的断面の大きい部材の重ね梁を採用し付加価値の向上をめざすとともに、重ね梁の接合をボルトによる機械的接合とすることでリユースにも配慮。また、展示室の主要部には地域のヒノキ材を格子組にして展示空間を構成することで更新性を確保している。小屋組みを和小屋とすることで地域の在来工法の担い手に公共建築工事への参加機会を提供するとともに、建築技術の維持にとどまらずに創造的形態を模索することで伝統工法の新たな可能性を見出している。



施主	設楽町
設計者	株式会社浦野設計、株式会社乃村工藝社
施工者	吉川・遠山 特定建設工事共同企業体
主要構造	木造（軸組工法）、鉄骨造、鉄筋コンクリート造
階数	地上2階
延べ面積	2,897.93 m ²
主な使用樹種	スギ、ヒノキ

アネシス茶屋ヶ坂（愛知県名古屋市）



〈施設概要〉

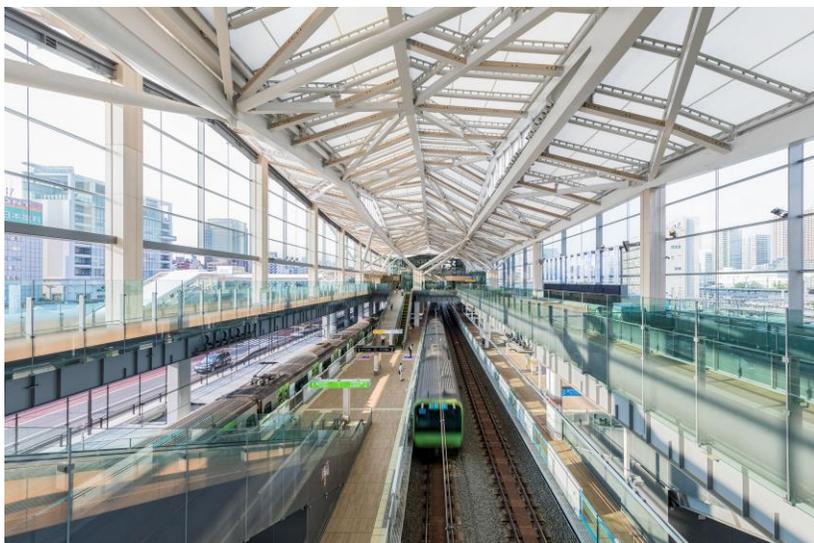
木質構造とRC造のベストミックスとなる木質ハイブリッド集合住宅を新たに開発。特に法的規制の厳しい耐火建築物にも適用できる木質耐火部材を独自開発し、施工性及び納まりを改良。ドリフトピン・ラグスクリューボルト併用の高耐力CLT 耐震壁の開発、仕上げ材兼用型枠・遮音材・断熱材として活用するRC・CLT合成床の開発など、普及・波及効果が高く木材の高付加価値に寄与する建築物を実現。無機質になりがちな都心の住宅街に木質建築のよさを再認識させる施設となっている。



施主	清水建設株式会社
設計者	清水建設株式会社
施工者	清水建設株式会社
主要構造	木造、鉄筋コンクリート造、その他（ハイブリッド構造）
階数	地上4階、地下1階
延べ面積	3,211.42 m ²
主な使用樹種	カラマツ、スギ

木材利用推進中央協議会会長賞

高輪ゲートウェイ駅（東京都港区）



＜施設概要＞

耐久性や防耐火面から木材利用が見送られてきた首都圏の駅施設において、線路上空の大屋根の小梁やコンコースの柱、事務室やトイレの壁に南三陸の木材をふんだんに利用。大和張り仕上げによる材料交換等のメンテナンスの工夫やガラスコーティングにより燃えにくい配慮と耐久性を両立させている。人が触れる部分の柱型や壁面、軒天に木材を利用して駅全体を暖かみのある雰囲気とし、新しい日本の駅にふさわしい木材を多用した駅施設。

施主	東日本旅客鉄道株式会社
設計者	隈研吾建築都市設計事務所 JR 東日本建築設計
施工者	品川新駅（仮称）新設共同企業 （大林組＋鉄建建設）
主要構造	鉄骨造
階数	地上3階、地下1階
延べ面積	3,969.52 m ²
主な使用樹種	スギ、ラジアータパイン

南予森林組合新事務所（愛媛県北宇和郡鬼北町）



<施設概要>

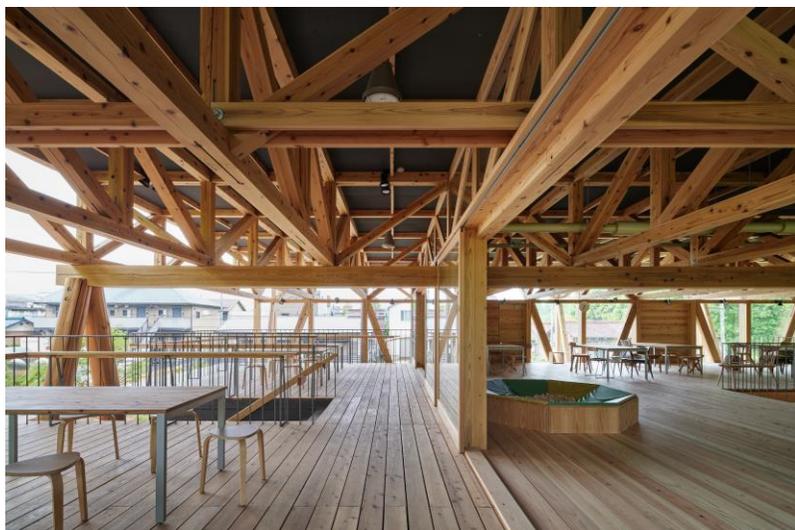
CLTに少しずつ角度を持たせてラグスクリューボルトで接合した連続円筒シェル構造屋根を全国的に初めて施工した施設であり、親しみやすい外観デザインとなっており、周囲の山並みや自然と調和するデザインとなっている。

地域内における林業事業体等の連携体制の構築及び建築関係者等の育成を図るとともに、材工分離発注方式により、南予地域の林業事業体が生産したスギ・ヒノキを地元の製材業者が製材・加工し、地域内の建築士・工務店等が活用する仕組みづくりに取組んだ。



施主	南予森林組合
設計者	金箱構造設計事務所 新企画設計株式会社 末光弘和 + 末光陽子/株式会社SUEP
施工者	愛媛建設株式会社
主要構造	木造（軸組工法）,CLT連続円筒シェル構造
階数	地上2階
延べ面積	772.11 m ²
主な使用樹種	スギ、ヒノキ

KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE (岐阜県各務原市)



<施設概要>

あそび場の安全を確保する観点から、出来るだけ柱を落とさない開放的な空間を目指し、木造トラスによる架構を採用。加工に当たっては、プレカットに依らず、すべて大工による手刻みで施工。手刻みで設けたスリットに金物を取り付けているため金物が目立たない美しい架構を実現している。

メインで使用する木材を正方形に近い角材や丸太材とすることで製材のロスを減らすとともに、林業・製材・施工・設計が連携することで材木を余すことなく活用している。

施主	各務原学びの森株式会社
設計者	飛騨五木株式会社 goboc 設計事務所、株式会社TAB
施工者	株式会社井上工務店
主要構造	木造（軸組工法）
階数	地上2階
延べ面積	980.12 m ²
主な使用樹種	スギ